

木区 宝校 同推協だより

この一年は…

会長 岡田寿晃

昨年五月三十一日、総会でスタートした時、同和教育中心の方針から、他の人権侵害を言われている領域と同じレベルでの活動内容を決めなくてはいけませんでした。名称変更も視野に入れていましたが、親団体が変更していかないのになぜ？という気持ちが強かったです。

結果的には従来の事業を受け継ごうと決めました。しかし、小地域懇談会の内容については、同和教育から障害者問題に変更されました。このことは本年度の大きな転換でした。しかも、懇談会の進行が地区推進員の四名の手によって実施されるということまで市の方針が決定されています。これが本年度の最大の取り組みでした。

育協議会（市同教）と市同教から出ている市同和教育推進協議会連合会（市同推協）があり、宝木地区同推協は市同推協の傘下にあります。二つの団体とも名称変更の件で協議を重ねてきており、「同和」という言葉ははずそうとしています。このことは、昨年すでに考え方として出していましたので冷静でしたから、同和教育解消の方針を当てはめ人権推進に努めたつもりです。



事情を推進する場合にどうしても必要なのが予算です。予算が少ないから金いらさず進められる事業内容を考えなくてはなりません。動員が掛かっ

ても旅費すら支給できなかったのです。動員に依じてくださった役員ボランティア精神に感謝しています。役員を各部落から一名推薦してくださいましたことに感謝しています。市行政は全面的に責任を持っていただけると進事業を民間に移行させようとしています。発言も控えるが、金も控える。控えた部分は民間が頑張る。控えた部分は民間という考えです。

小地域懇談会

『こんなときどうしたらいいの』出合いをチャンスに

副会長 橋本敬一

各地区部落区長、推進員さんの協力により小地域懇談会は、酒津地区の日程が地区の諸事情により二度の延期となりましたが、二月二十一日に実施し、全地区終了することができました。今回の人権学習では、障害者問題をとり上げることとし、出席者の多くの皆様と一緒に考えることが出来ました。健常者には、日頃あまり意識することなく見

過ぎていたことも、今回の懇談会を通して最後の結論を出すということではなかったのです。が、改めて相手の立場・相手の身になって考えるところという大きな成果があったものと思います。私達の身の回りをみても、ハード面ではとても完全な地域環境になっていないことは、多くの人の知るところですが、少なくとも障害を持った人を「気の毒に」といった気持ちで接するのではなく、対等に話し合える社会に近づけることが健常者として努めていく必要があるのではないかと感じました。



ふれあい交流会に参加して

夏ヶ谷老人クラブ

居川伊勢松

平成二十年十一月九日(日)
夏ヶ谷老人憩いの家、隣保館で
ふれあい交流会がありました。
子どもから高齢者まで各世代四
十九名が集まりました。

内容は軽スポーツで猫に小
判・スカットボール・カローリ
ング・輪投げ・ボーリングの五
種目です。私のグループには二
人の小学生がいましたが、競技
は子どもも、老人も関係なく出
来るものでした。子どもの方が
早く慣れ、上手になりました。

加減が難しく、得点に繋がら
ない時は、みんなでがっかりし、
また、得点が入った時は自分の
ことのように喜び合いました。
残念なことに私たちのグループ
は下位のほうでしたが、
チームが一
つのことに
夢中になれ、
とても良か
ったと思っ
ました。



宝木こども会

初田夏希(宝木小2年)

わたしは、まとあて(猫に小
判)で百万円が5点を1回当て
ました。七十万円が3点も当て
ました。合わせて8点取りまし
た。うれしかったです。カロー
リングもしました。ぜんぜん入
らなかつたから、くやしかつた
です。ボーリングもしました。
あんまり、たおれなかつたけど
楽しかつたです。つぎは、みん
なでお昼ご飯を食べました。お
にぎり、たくあん、おみそ
汁をたべました。おいしがつた
です。また、行きたいです。

役員視察研修に参加して

副会長 居川春好

十月四日(土)大山町へ研修
に行き、講師の水江さんにお話
を伺いました。

小学校一年生の時、隣の席の
男の子が手をつねってきたり、
消しゴムをとったりして喧嘩に
なりました。その子は叩かれた
と三年生の兄に告げ、昼休みに
廊下で呼びだされ「〇〇のくせ
になまいきな!」と言って顔を
殴られたそうです。それが記憶

に残る初めての部落差別だと。

高校を卒業し、県外に就職す
る時、お母さんは「一生懸命陰
日なた無く働く事、人の物をと
らない事、悪い事を絶対しては
いけない」と言われたそうです。
部落差別がある為、後ろ指を
指されないようにとの親心だつ
たのでしよう。

また、2001年11月2日に
倉吉で起きた差別事件では、そ
の方の連れ合いは毎年その日が
来ると事件の事がトラウマにな
りうつ病になるそうです。

差別が多くなつたのは、弱い
者が弱いものに対して追い討ち
を掛ける。社会のひずみがつう
している。

しかし、同和教育のお陰で差
別を見抜く目が出来、祝福され
て結婚するケースもふえてきま
した。

いつ皆様も被差別の立場に立
たされるかも分かりません。そ
うならないためにも自分を磨い
て人権を尊重できる社会を作っ
ていただきたい。と言った内容
でした。

私達は一人ひとりの人権を尊
重し、人権の侵害の無い、明る
く住みよい町づくり、人が人と
して楽しく暮らせるあらゆる差別
の無い町づくりを目指したいと
思いました。

平成20年度小地域懇談会実施状況

【参加研修会等】

Table with 6 columns: 部落名, 開催日, 曜日, 住民, 役員等, 合計. Lists various community meetings and their attendance.

Table with 3 columns: Date, Location, and Organization. Lists various training sessions and seminars.